

令和4年度 授業改善推進プラン（小学校学級担任用）

福生第三小学校 第6学年2組 担任 ○○ ○○

1 福生市学力・学習状況調査の結果				
	分類	意識調査の質問項目	組	全国
学びに向かう力	感情のコントロール	8 家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う	88.2%	92.9%
		53 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なことがある	84.8%	75.4%
		54 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う	100%	92.2%
	目標の達成	18 ふだんから「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることもある	64.7%	76.8%
		26 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	93.9%	90.5%
	他者との協働	107 わたしは、友だちの心をきずつけることを言ったり、からかったりしていない。	81.8%	82.4%
	学力と関係が深い質問	11 将来や進路について家の人と話をする	41.2%	61.1%
		33 習った内容で、理解できていないところが分かっている	88.2%	81.3%
		37 わからないことは、わかるまで努力している	61.8%	72.2%
	領域名	学力調査の分析 ○成果 ▲課題		
国語	言葉・情報・言語文化	▲全国平均正答率を8.1ポイント下回り、(外来語を選ぶ)設問に課題がある。		
	話すこと・聞くこと	▲全国平均正答率を4.6ポイント下回り、(木村さんの質問から木村さんの考えを選ぶ)設問に課題がある。		
	書くこと	▲全国平均正答率を4.6ポイント下回り、(漢字の書き・貨物列車が通る)設問に課題がある。		
	読むこと	▲全国平均正答率を6.1ポイント下回り、(文章の内容を正しく説明したものを選ぶ)設問に課題がある。		
算数	数と計算	▲全国平均正答率を16.5ポイント下回り、(5÷14の商を分数で表す)設問に課題がある。		
	図形	▲全国平均正答率を14.3ポイント下回り、(二等辺三角形の角の大きさで正しいものを選ぶ)設問に課題がある。		
	変化と関係	▲全国平均正答率を10.0ポイント下回り、(平均の勉強時間を求める)設問に課題がある。		
	データの活用	▲全国平均正答率を17.8ポイント下回り、(春が好きな人の人数を求める)設問に課題がある。		
2 児童の実態			3 児童の実態を踏まえた授業改善の取組	
全体的に学力が低い。国語では、「言語・情報・言語文化」「話すこと・聞くこと」のすべての領域で、全国平均を下回っている。福生市の中では、「言語・情報・言語文化」「書くこと」「読むこと」の領域では、福生平均を上回っている。 算数では、「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の各領域で、約5%以上下回っている。福生市の中では、「変化と関係」の領域のみ、福生平均を上回っている。 算数は、苦手意識をもっている子が多い。しかしながら、6年生の算数の授業を通して、単元学習においては、基礎学習が定着している。			基礎学力を付けるために、「読み・書き・計算」の学習を重視して行う。	
			国語では、音読を確実に行う。国語の教科書をすらすら読めるまで繰り返し行うこと、一人での音読テストを何度も行う。さらに、作文の指導として、長く文章を書く経験を多く積み重ねさせる。	
			算数の授業では、教科書の問題を確実に行う。単元を貫く問題を解き方の教え、基礎となる教科書問題をすべて解くようにさせる。さらに、ノート指導の徹底として、ゆったりと書かせる。	
			国語、算数の基礎学力を保証することによって、自主的に応用的な問題にチャレンジさせる。	
			結果的に、自分から進んで学習する態度を育てる。	
4 ミライシードとの連携機能を活用した取組				
個別ドリルの実施状況		令和4年8月末時点で完了している児童	91.2%	(31人/34人中)
確認テストの実施状況		令和4年8月末時点で完了している児童	88.2%	(30人/34人中)